



2020. 9. 18 教育文化研究所 長阿彌幹生 wrote.

やっと秋らしくなりました。今年の夏は記録的な暑さとなりましたが、いかがお過ごしでしたか。地球温暖化は一刻の猶予も出来ない段階にまで来ています。世界中で気候変動への取り組みが行われていますが、私たちも自分たちの出来ること(車に乗る回数を減らす・ゴミを減らす等々)から取り組んでいきたいですね。

★9月14日 空には秋の雲が浮かんでいました。夏の足音が遠ざかっていきます。



なかよし情報200918:エッセイ「鳥信(ちょうしん)」



私が毎月1本の鳥のエッセイを書き始めてから、もう二十年になります。その時に思ったこと、考えたことを鳥の姿と重ね合わせて書き綴っています。元はと言えば、私が鳥について話をしているのを聞いた人から、それを文章にしてもらえないかと頼まれたことがきっかけです。それ以来、書き続けています。今日はその中から、先日書き上げたばかりのエッセイを皆さんに紹介します。楽しんで頂ければ嬉しいです。

鳥信NO. 219 タイトル「思い通り」にいかないのが面白い」

折に触れ鳥や花の話をする。その話を聴いて興味を持った人が是非連れてってほしいと言う。そんな時は、喜んで一緒に森や山に出かけるようにしている。

出かける前には、どのコースを歩こうかとわくわくしながら計画を立てる。どんな鳥や花に、どこで出会えるだろうか。思いを巡らし、頭の中でシミュレーションしてみる。行く前から私の思いは森の中を歩いている。

杉林では立ち止まってその香りを感じよう、溪流沿いの小道ではキセキレイの澄んだ声が聞けるといいだろうなあ、道端には紫色をしたヤブランの花穂が伸びているだろう・・・、その美しさ、芳しさ、そして森の与えてくれる安堵感など、一緒に愉しめればどんなに幸せなことだろう。

しかし、どんなに素敵な計画を立てていても、実際に歩いてみると、その通りにいかないことが多い。自然は思い通りにはいかない。天気は晴れだけではない、曇りや雨もある。雨が降るとコースを変えなくてはならないこともある。お目当ての鳥や花なども彼らの都合で姿を現すので、まったく出会えないこともある。

先日、知人と檜の林の中を歩いていた。一羽の鳥を見かけた。少し距離があった。色が暗緑色なのでウグイスかなと思ったが、目を凝らすと喉あたりに黄色が少し見えた。ソウシチョウだ。こんな場所にも棲んでいた。崖崩れの斜面には一輪のホトギスが咲いていた。ここで見かけるのは初めてだ。

計画していたことと違うことが起きるが、それが実に面白い。それは新しい発見と深い感動に繋がっている。こんな時期に、こんな場所で、あんな声が、あんな姿で。意外な展開に驚きながらも、自分の想像をはるかに超える出会いを楽しむ。その度に自分の世界が広がっていく。

七十年の人生で“思い通り”になったことなど一度も無い。ならばいっそのこと、“思い通り”という狭くて不自由な世界から、広くて自由な世界の中に自らを解き放してみてもはどうだろうか。人生は余程楽しくなるだろう。

(註)ソウシチョウ(相思鳥):スズメ目ソウシチョウ科。体長はスズメと同じくらいの 14-15 cm。背は暗緑色。眉斑から頬は薄い黄色、喉は黄色で胸部は濃いオレンジ色、翼に黄色と濃い赤の斑紋がある。嘴は赤い。中国から観賞用に持ち込まれたものが野生化して関東以西に棲みつく。標高の低い常緑広葉樹林、落葉広葉樹林に生息。雑食で昆虫、果実、種子等を食べる。大きな声で鳴き交す。



★ソウシチョウ 2020年2月11日 筑紫野市 天拝山山麓で撮影